



# 公立世羅中央病院だより

No.50

## 救急外来受診の手引き(3)ー胸痛編ー

公立世羅中央病院 内科部長 亀田 直毅

世の中にはいろいろな病気があります。症状のある疾患もあれば自覚症状のない疾患もあります。

救急外来を受診しよう、という際には何か困った症状があることがほとんどではないでしょうか。よくある症状としては発熱、咳、嘔吐、下痢などがあるかと思えますが、なかでも痛みを伴う症状というのは耐え難いものですし、また重篤な疾患ではないか、と心配になるものではないでしょうか。

ここでは「胸の痛み」を起こす疾病についていくつか解説し、どのような際に、特に救急を受診していただきたいのかお話ししたいと思います。

胸部には心臓、大動脈、肺などの重要な臓器があります。

### ① 胸を締め付けるような、圧迫するような痛み

このような症状で冷や汗を伴ったり、長時間持続する場合、また左肩や顎の方に痛みが放散する際には急性心筋梗塞、狭心症というような心臓を栄養する血管（冠動脈）が閉塞したり、閉塞しかけている可能性があります。落ち着いてみるようでもたちの悪い不整脈が急に起きたり病状が急変する可能性がありますので直ちにご連絡ください。特に今まで心筋梗塞、狭心症などの診断を受けたことがある方、動脈硬化の危険因子である糖尿病、高血圧、高脂血症などと診断されている方では発症の危険性が高いので注意が必要です。

### ② 胸部の強い痛みが持続した場合

場所も変化する場合

管（大動脈）が裂けてしまう大動脈解離という病気の際にある症状です。この際の痛みは胸部といっても背中の中の痛みを訴えられる方も多く見られます。

③ 息をすうと痛みが増す場合、呼吸困難感がある場合  
肺あるいは、肺の外にある胸膜という場所に病変がある可能性を疑います。気胸、胸膜炎、肺血栓塞栓症などを考えます。

一方あまり緊急性のない痛みというものもあります。痛みの部位が局限しておりポイントで骨の上が痛い場合、このような際には肋骨骨折などを疑います。  
また一瞬で症状がなくなる、チクチクとした痛み。このような際にはあまり原因が定かでないことも多く、少なくとも緊急で受診される必要はありません。